第7回播磨臨海地域カーボンニュートラルポート推進協議会　議事要旨

日時：令和6年11月20日（水）10:00～11:40
場所：ホテルモントレ姫路

●意見交換内容

1．姫路港・東播磨港港湾脱炭素化推進計画について

・港湾脱炭素化推進計画の水素供給目標・計画として、播磨・臨海地域での需要分として581万トンという目標が示されている。一方で、瀬戸内・関西地域をターゲットとして水素供給拠点の形成を目指すのであれば、瀬戸内・関西地域のポテンシャルとして示されている6,310万トンのCO_2排出量をカーボンニュートラルにするために必要な水素を、姫路港・東播磨港で受け入れる必要があるのではないか。そのために必要となる土地や費用を検討したうえで、予算確保等について国土交通省と相談して進めては如何か。
→（事務局）推進計画ではまず、播磨臨海地域での需要581万トンを水素供給目標として記載している。今後、瀬戸内・関西地域への二次輸送が見込めるようになれば、瀬戸内・関西地域での需要もターゲットとして取組を進めていきたい。また、水素受入・貯蔵・供給拠点を整備するためには広大な土地が必要となるため、企業とも連携して土地の確保等を検討する必要があると考えている。港湾管理者として港湾計画の変更や埋立免許の取得など、地元企業と一緒になって、拠点整備の推進に取り組んでいきたい。

・播磨臨海地域がファースト・ムーバーとなるべく、多くの企業の参画により計画が作成されたことに敬意を表したい。カーボンニュートラルを実現していくためには、経済産業省とも連携して取り組んでいく必要がある。各企業の取組等が具体化するなかで、国土交通省としても、港湾計画の変更や施設整備等に対する支援等を考えていきたい。

・説明資料の港湾脱炭素化推進計画の推進体制に記載されているとおり、推進計画の策定に留まらず、推進計画策定後に本協議会を活用して如何に発展させていくかが重要と認識している。ワーキングのような形でも構わないので、引き続き各企業等との間で意見交換をしながら、しっかりと進めていただきたい。

・2050年に向けて産業構造の転換が図られていく中で、港湾は面的な役割を果たすべきと考える。この役割を踏まえた推進計画となっていると思う。

・ターミナル外は企業の取組によるところであると思うが、少なくともターミナル内での取組についてはもう少し段階を細分化したほうが良いと感じた。
→（事務局）ターミナル内の取組（照明LED化や陸上供給電源の導入等）については、可能な限り早期に実現していきたい。また、港湾管理者として取り組めること（環境船の入港料減免等）も着実に実施していきたい。

・「港湾のターミナルの脱炭素化の取組に関する認証制度」について、第一段階としてコンテナターミナルを対象に制度の検討が行われている。コンテナターミナルの次にはバルクターミナルでも認証制度の検討が始まると思うので、その議論の動向も意識して取組を進めてほしい。
→（事務局）姫路港・東播磨港はバルク港湾であるため、国の認証制度も意識して取り組みを進めていきたい。

・今回のパブリックコメントのコメントを見てもカーボンニュートラルに向けては地域の方々の理解も必要になっていくということを認識した。また、各社の既に開発されている脱炭素関連の活動が重要であり、さらに推進するには国の補助等も活用しながら支えあって、港湾脱炭素化促進事業についてしっかり取り組んでいくことが重要と理解した。
→（事務局）港湾管理者単独で取り組める範囲には限りがあるため、各企業の力を合わせて播磨臨海地域の脱炭素化を進めていきたい。協議会が、ネットワークを繋ぐ良い機会となるよう引き続き取り組みたい。

2. 播磨臨海地域カーボンニュートラルに関する最近の動向

・従来、都道府県および政令指定都市が窓口となっていた水素等の保安に係る許認可申請について、今後は国が一括して対応するとのことだが、具体的な窓口や手続の流れについてご教示いただきたい。
→具体の窓口等について分かり次第共有する。

・ファースト・ムーバーとなっていくためには、需要創出という観点も重要である。経済産業省として、カーボンニュートラル社会の実現に向けた絵姿をどう描いているか。
→産業振興、地域経済成長の観点からGXに取り組んでいく。また、くらし等のGXとして、住宅の窓改修やクリーンエネルギー自動車等、生活の質向上に寄与する支援も進めているところである。

・兵庫県として、需要拡大を見据えて県庁の他部局（まちづくり等）と連携していくことは考えているか。
→「ひょうご水素社会推進会議」を設置し産学官での検討を行っているほか、中小企業「成長産業育成コンソーシアム」のなかでマッチング等による中小企業の支援を通じて、兵庫県として需要創出に向けて取り組んでいる。また、県民に向けては、水素への理解促進等の啓発に地道に取り組んでいるところである。

・ポートアイランドでCGS（コージェネレーションシステム）の取組が行われているが、水素社会実現に向けた面（都市）としての需要創出をどう考えているか。例えば、ポートアイランドで実施しているCGSについて、第2・第3の実証設備を整備することは考えていないか。
→CGSについては、現行の設備を活用して、新たなテーマを設定し、技術開発を進めている。そのため、新たな実証施設については、現在のCGSとは別の角度での課題解決や技術実証の検討が必要と考える。

・カーボンニュートラルに向けて産業構造転換が生じる中、兵庫県が需要の最先端でもある、ということを地域としての総力を挙げて目指して欲しい。
→兵庫県下の産業支援機関は、企業の水素産業への参入支援を行う一方、脱炭素を進めるため、水素の利活用を促すセミナーなどをしている。県の施策とも連携して兵庫県全体の動きとなるよう取り組みたい。

・水素パイプラインの敷設はハードルが高いという意見を耳にすることがあるが、コスト面、技術面いずれが問題なのか。
　→現時点では、コスト面が最も大きな課題であると認識している。

3. 今後の取組

・推進計画が策定・公表されることで、補助等含めて動きやすくなるという理解で良いか。
　→補助については明言できないが、正式に推進計画が策定・公表されることで官民問わず動きが具現化していくと思う。

・推進計画の策定・公表の時期は想定しているか。
　→（事務局）速やかに策定したい。年内もしくは年度内には計画書を国土交通省に提出し、公表したいと考えている。

以上